

教科	科目	学年	単位数
数学	数学 C	3 年（外進探究文系）	5
使用教科書		副教材	
数学 C（数研出版）		問題集:4STEP「数学 C」(数研出版) 参考書:入試問題集を適宜購入予定	

1. 学習到達目標

基礎概念の理解と標準問題を解くための基本手法を習得します。それをもとに、出題者の言うことに耳を傾け（**服する心**）、与えられた条件を吟味（**Think**）、分析（**Analysis**）し、論理的に構成（**Logic**）する力を身につけます。また、些細な計算もおざりにせず、責任感をもって最後まで全うする力（**全うする心**）を身につけます。そして、身につけた知識を統合（**Synthesis**）することで、さまざまな問題を解決するために活用し、読み手を意識して（**感謝する心**）、解答を論述する力を身につけます。

教科書で取り上げられているレベルの問題を自力で解けるようにします。解法の丸暗記ではなく、きちんとした知識にもとづいた理解をした上で練習することで、総合問題・活用問題など初見の問題も解けるようにして、大学入試問題に対応した基礎力をつけることを目標とします。

2. 評価の観点と方法

知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
ベクトル、平面上の曲線と複素数平面についての概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、数学的な表現の工夫について認識を深め、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。 定期試験や、朝テスト、授業などにおける小テストの結果などを総合的に評価する。	大きさと向きをもった量に着目し、演算法則やその図形的な意味を考察する力、図形や図形の構造に着目し、それらの性質を統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。 授業態度、課題への取り組み、振り返り状況などを総合的に評価する。

3. 学習内容（科目の特徴や学習の注意点など）

この授業では教科書の本文を中心に学習します。教科書の節末や章末にある「問題」「演習問題」「研究」「発展」については、授業では扱わない場合があります。しかし、これらの授業で扱わない問題も、学んだ基礎知識や標準的な手法を組み合わせで解決できるような問題は、定期試験の出題範囲となります。なお、副教材の問題集「4STEP」は主に授業と連動して毎日の復習・反復演習用としてレポート課題として使用します。

「4STEP」を学習する際にわからないことを調べることに活用します。さらには大学受験までの受験勉強用の教材として3年間使用できます。

SGTで「補習講座」や「教養講座」が開講される場合がありますので必要に応じて積極的に活用しましょう。成績不良の場合には不定期の「補習講座」で補います。詳しくは、教科担任より指示があります。

	月	単元	授業内容	その他（授業で扱う習得すべき内容） ※番号は必ずしも学ぶ順序を表すものではありません。
1学期 ～ 3学期	4	オリエンテーション		「授業の受け方」「学習の方法」「課題」「朝テスト」「定期テスト」「成績のつけ方」「SGT」などのガイダンス
	5	数学C 第2章 空間のベクトル	空間のベクトル	①空間座標の基礎 ②空間ベクトル ③ベクトルの分解 ④成分 ⑤内積 ⑥位置ベクトル ⑦同一直線条件 ⑧同一平面条件 ⑨直線と平面の交点の位置ベクトル ⑩内積の活用 ⑪空間における直線・平面 ⑫球面の方程式
	6	大学受験対策	大学入試演習	・数学Ⅰ・数学A・数学Ⅱ・数学B・数学Ⅲ・数学Cの全範囲を総復習し、入試基礎問題を中心に、問題演習を行います。 ・これらの問題を解きながら、その問題のテーマと解法を思いつぐのに必要なアイデアや知識など、重要ポイントを整理していくことで、入試問題の典型的な重要問題を自力で解けるようにします。 ・記述力の向上を図りつつ、大学入試共通テスト型問題の演習も積極的に取り入れていきます。 ※最新の大学入試の状況により、扱う内容や教材を変更する場合があります。

4. その他（科目の特徴や学習の注意点など）

この授業では、“自ら考え”、“論理的”に“分析”し、これまで学んできたことを“統合”する力をつけることで、“問題解決能力”を養います。1つの解法で満足するのではなく様々なアプローチを考察、検討することが必要です。また、答案として書くだけでなく説明出来るようにすることも求められます。時間数の関係で教科書の一部内容を扱わない場合がありますが、授業で身に付けた問題解決能力を活用すれば必ず出来るはずです。

不定期でレベルアップに繋がる講座も行うので、積極的に参加してください。

※生徒の現状や進路希望などの実態、最新の大学入試問題の傾向などを考慮して、扱う内容や教材を変える場合があります。また、大学入試共通テスト型問題の演習は段階的に授業内の演習、朝テスト等で取り入れていきます。